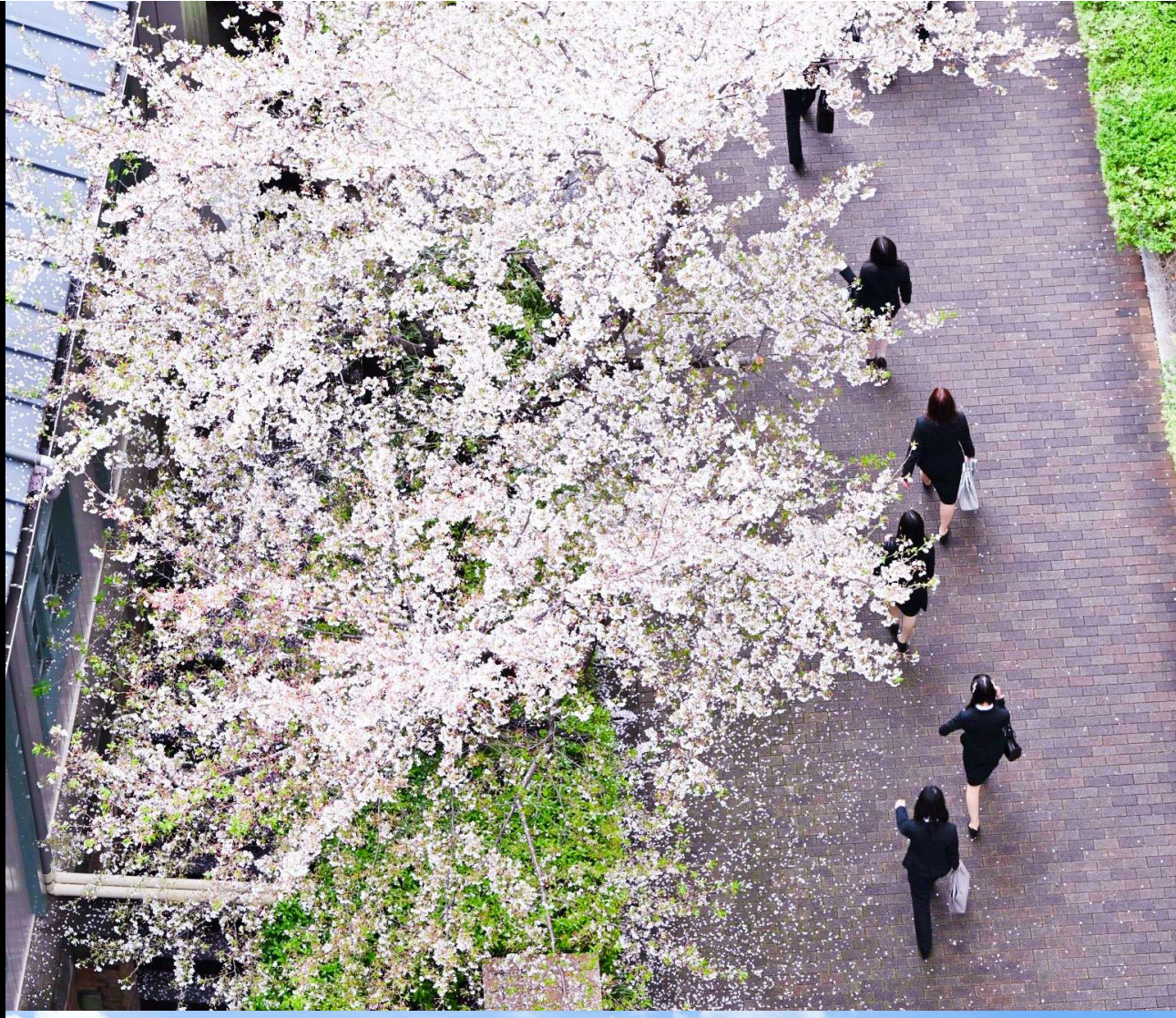
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY
DEPARTMENT OF EDUCATION
GUIDEBOOK 2026–2027





日本女子大学

教育学科

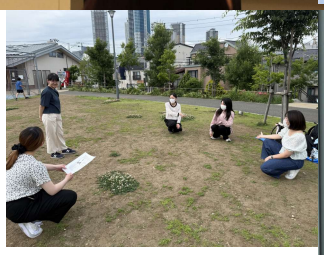
GUIDEBOOK 2026 - 2027















CONTENTS

02 教育学科について

03-04 在学生インタビュー
教育学科の学びと大学生活

05 教育学科の 4年間

06 教育学科の多様な授業

07 教育学科の先生たち

08 教員インタビュー

09-10 教育学を学ぶ――研究と大学院での学び

11 教師になる――教職課程の学び

12 教師になるための学び

13 教員採用試験合格率
／教員採用試験への支援

14 教師として活躍する卒業生

15 資格を取る

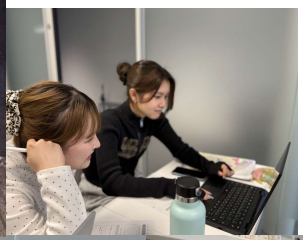
16 教育学科から世界とつながる

17 卒業後の進路

18 さまざまな分野で活躍する卒業生







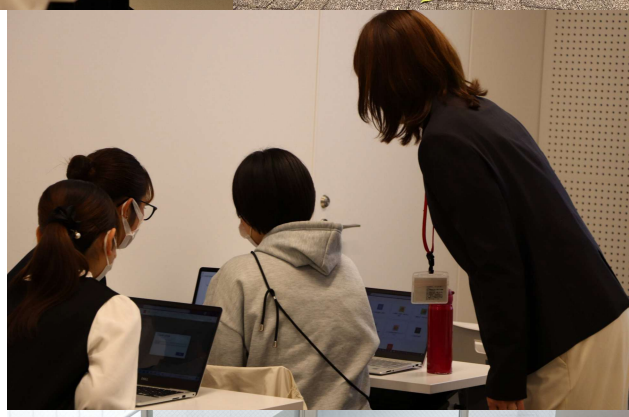












教育学科について

教育学科は，生涯にわたる人間の成長を教育学の幅広い基礎知識と深い専門知識に基づいて理解し，教育に関わる実践と諸問題の解決方法を複眼的な視点から探究する学科です。

そのうえで，教育コミュニケーションという側面から，多様な他者と協働し教育を核とした既存社会の変革と持続可能な社会の創造を主体的に推進できる人を育てていくことを目指しています。



教育学科ホームページは
こちらから
https://kyoiku.jwu.ac.jp/








在学生に聞いてみた

教育学科の学びと大学生活

桑嶋 晋平（教育学科教員） 今日は，教育学科での学びや，大学生活について伺ってみようと思いまして，教育学科の学生３名に集まっていただきました。よろしくお願いします。早速質問なのですが，**大学での学びってどんな感じでしょうか？高校までの勉強との違いって感じていますか？**

田中 優衣（教育学科 4 年） そうですね，大学は講義に加えて実習やフィールドワークもあるので，身をもって学ぶことができるということを感じています。

村石 貴咲（教育学科 4 年） いろいろな授業のなかから自分で選んで履修していくので，最初はすこし戸惑っていました。けれども，自分自身の興味があることを選んで，授業をとっていくので，いろいろなことを学べるという感じがします。

八木 杏（教育学科 4 年） そうそう，いろいろ選べる。

桑嶋 なるほど。どんな授業をとっていますか？

田中 わたしは社会科の免許を取ろうとしているので，もっと歴史に関する知識を深めたいなと思って，歴史系の授業を履修しています。

村石 わたしは，もともと美術が好きだったというのもあって，教養科目で美術史の授業をとっています。

桑嶋 女子大学で女子だけの環境というのは，どんな感じですか？

田中 共学に行っている子からは，ギスギスしているんじゃない，と言われることもあるんですけど，実際にはそんなことはなくて，すごくのびのびしているように思います。特に教育学科の子は優しくて，なにかと声をかけてくれる子も多いですし。

八木 自由な雰囲気があるなあ，と思っています。

「この子たちとずっといる」とか「ずっと特定の誰かとべったり」というよりも，たまたま授業で近くなった子といたりとか，ひとりでいたりとかすることが多いです。

田中 周りの目を気にしないで，のびのびとしていられる，というのは女子大ならではのように思います。

桑嶋 教育学科は人間関係という面では気をつかわなくてよい雰囲気があるかもしれませんね。

八木 教育学科は目標をもってきている子が多くて，それで気にならないというか。それぞれ目標があって，授業では一緒に取り組んで仲良くなるんですけど，それぞれが目標に向かって取り組んでいて，高め合っているのだと思います。

八木 それで，人間関係が閉じてるという感じがしないんだと思います。

田中 それぞれが目標を持っている，というのを共有しているので仲良くなりやすい，というのはあるように思います。

桑嶋 教員採用試験に向けては，どんなふうに勉強に取り組んでいますか？

八木 わたしは，大学で開いている教員採用試験の対策講座に参加しています。面接や小論文の対策もあって，とてもためになっています。また，資格教育課程指導室や教職総合センターで，教員採用試験に関わる相談が気軽にできるので，とても勉強がやりやすい環境だと思っています。

田中 そうそう，学校現場での経験がある先生が相談にのってくださるので，悩んだり困ったりしたとき具体的なアドバイスをもらえます。

桑嶋 教育学科には，研究者だけでなく，小学校や中学校で先生をされていて，校長をつとめられていた方や，教育委員会で活躍されていた先生もいらっしゃいますからね。

田中　授業で模擬授業をやることも，とても役に立っています。ある授業で模擬授業をやったのですが，授業自体は失敗したなあ，と落ち込んでいました。ですが，そのあとに先生から事細かなフィードバックをもらって，どこをなおしたらいいのかが明確になってとても勉強になったと思っています。

桑嶋　教育学科では，サークル活動や部活動をしているひとは多いのでしょうか？

田中　わたしの周辺では多いです。大学内のサークルはもちろん，インカレでいろんな大学の子と仲良くなっている子もいます。教育学科では,サークル活動のほかにアルバイトして，充実した生活を送っている子が多いように思います。

村石　わたしは，JWU アンバサダー（注記：日本女子大学の魅力や特徴を「等身大の声」として幅広い世代に発信する学生組織）というのをやっています。学園祭のときは，企画を提案して，高校生で遊びにきてくれた子の相談にのったり，話したりしました。

桑嶋　村石 さんは教員免許を取る予定はないそうですが，教育学科の中で肩身が狭いといったことはないでしょうか？

村石　わたしは教員免許を取るかわりに，社会教育主事と社会調査士の資格を取ろうとしています。それから，異文化相互理解実地研究に参加して，ベトナムの学校を訪問したり，現地の方たちと交流したりしたんですが，教員免許を取らなくてもウェルカムな感じでしたし，肩身が狭いと感じたことはないです。教職課程の授業を履修する必要がない分，いろいろな授業を自分で選んで取ることができるのも楽しいです。

田中　教職課程の授業を履修していても，教職に就かない，という子もいるので，肩身が狭いといったことはないように思います。

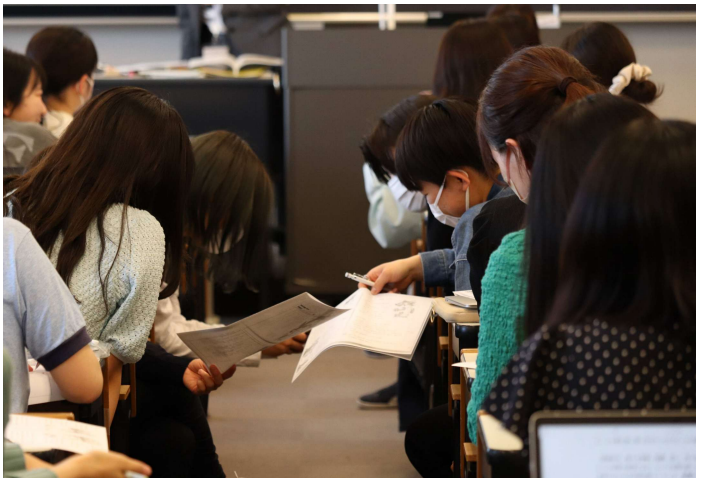
八木　教員にはならないけれど，教育関係の仕事に就きたい，という子もけっこういます。教職課程を履修しているかどうかはあまり関係なく，日々を過ごしていけると思います。











教育学科の４年間

１年次　「教育学基礎演習」で教育学の基礎を学ぶ



少人数制の「教育学基礎演習」などを通して，教育学の基礎的な考え方や方法論をじっくりと学びます。

２年次　専門科目を履修し自らの方向性を定める



１年次に修得した基礎力を土台にして，学科専門科目を履修。各自の学びの方向性を定めていきます。

３年次　関心のある専門分野をゼミで深める



ゼミに所属し，自分の関心の高い専門分野を深めます。教職課程では，学校での実習が始まります。

４年次　専門性を究めて卒業論文を執筆する



４年間の総仕上げとして卒業論文を執筆。丁寧な個別指導と集団での指導により，納得のいくまで研究内容と向き合えます。



私の一週間

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
7:00							
9:00	アルバイト	朝練		犬の散歩	朝練	犬の散歩	部活動
11:00		授業	授業		授業		
13:00				自主練			部員とごはん
15:00				部活動		部活動	ジム
17:00	自主練				友人とごはん		
19:00						部員とごはん	
21:00	資格勉強	予習復習	予習復習	資格勉強	復習		資格勉強
23:00	予習					映画鑑賞	



――授業と部活を両立しながら教師になるための学びを深める

教育学科４年　宮崎 かな

将来教師として活躍できるように，授業や実習に取り組んでいます。特に子どもたちにどのように教えるかを学ぶことに興味があり，実践方法について深く考えています。将来は，子どもたちの成長をサポートできる教師になりたいという目標があるため，そのために必要な知識やスキルを学んでいます。

部活動（ラクロス）では，チームの一員として日々練習を重ねています。試合に向けての練習は大変ですが，仲間と一緒に努力することで，団結力や自分自身の成長を感じることができ，とても充実しています。特に，練習の中で戦術を学び，実践に生かすことが面白く，もっと上達したいという気持ちが強くなっています。

両立は大変ですが，どちらも自分にとって大切なことなので，時間をうまく活用して頑張っています。部活動で培ったチームワークや集中力は，教育学科の学びにも役立っています。

教育学科の多様な授業



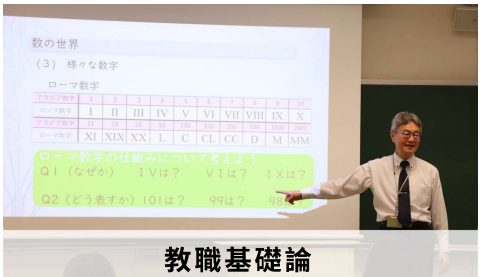
学習支援の心理学

どのように教えると，つまずきを解消し深い理解を促せるか，また自ら学ぶ学習者へ導けるか，具体的な事例をもとに教育認知心理学の視点から討論し考えを深めます。



教育行政学

教育行政の役割の一つは資源（ヒト，モノ，カネ）の配分です。その際には，平等性，公平性，効率性が問われます。講義ではこの問題を議論を通じて考えます。



教職基礎論

教職の意義，教員の役割・必要な資質能力・職務内容など教職全般について個人検討やグループ協議等を通して学び，理解を深めながら教職の魅力を感じ取っていきます。



女性教育史論

明治期以降の学校教育や社会教育における女子教育の目的・内容・思想等を通して，社会や家庭における女性の位置づけや役割，国家との関わりについて学びます。



初等社会科教育法

小学校社会科の授業を実施するにあたり，学習指導案を作成し，地図・地球儀，歴史資料，ICT を活用して模擬授業を行い，発表し，全体で感想を交流します。



総合的な学習の時間・特別活動

総合的な学習の時間や特別活動は，現代的教育課題とも深く結びついており，学校全体の活性化に寄与する教育領域です。総合的な学習の時間や特別活動を適切にデザインできる教師の育成を目指しています。



国語科概論

国語科教育の意義について理解を深めるとともに，学習指導要領を読み解きながら，国語科における「主体的・対話的で深い学び」について，実践的に学びます。



人間形成の社会学

年老いるまで成長し，変化し続ける「人間形成のプロセス」にはどのような日本的な特徴や問題があるのか，諸外国との比較も交えながらアクティブに考える授業です。



音楽科概論

人間と音との自然な関係を再考しながら色々な音楽活動を展開します。最終的には音楽創作を行い，小学校教員に必要な音楽的技能と知識の習得を図ります。



生涯学習論Ⅰ

生涯学習とは，生涯を充実させていく学びを指します。この授業では，私たちが学ぶ場や方法の多様性と，学びが私たちの生活や社会にもたらす意味について考えます。



授業研究

授業の VTR で観察して詳細な記述を行い，話し合いを通して授業に関する理解を深めます。絵本や文学作品に問いを立てて，問いを基に授業をするワークも行います。



国際教育学

日本社会の外国ルーツの子どもたちの移動背景を探った上で，かれらの日本の学校での適応を取り上げ，その背景にある教育システムの課題を掘り下げて検討します。



学級経営論

子どもたちが安心して過ごせる「望ましい学級づくり」をめざし，担任の役割や指導の在り方を学び，事例検討やグループワークを通して学級経営の知識と実践力を養います。



理科概論

学生自身が自然事象に対する興味・関心を高めるとともに，小学校理科における基本的な知識や自然事象を科学的に捉える「理科の見方・考え方」の基礎を学びます。

教育学科の先生たち



齋藤 慶子　教授

専門は日本の近現代の女子教育・家庭教育。現代の教員も抱える「仕事と家庭のバランス」という，男女共通の課題を歴史的に検討している。



瀬尾 美紀子　教授

理解や思考を中心に，子どもの学習のメカニズムについて研究している。また学習を支えるメタ認知，動機づけ，学習観，学習方略にも着目し検討している。



田部 俊充　教授

アメリカ，ヨーロッパの地理学的な現地調査や学説史を中心に研究を進めている。また，魅力的な幼稚園から高等学校までの社会科授業を目指して特にアナログ＆デジタル＆プログラミング地図を使った授業づくりや教材開発を進めている。



丸林 実千代　教授

学校の音楽教育も含め，すべての人々のあらゆる次元での自由な音楽活動の権利保障を基本とする生涯音楽学習について研究している。



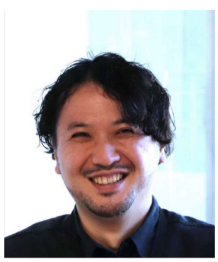
久保寺 浩　特任教授

専門は教育経営学。算数・数学科教育を担当。学校生活に困難を抱える児童生徒の学びを支える学校経営の在り方や教員・学校管理職の人材育成を研究している。



湯浅 泰美　特任教授

教育課程の編成や，教科横断的な学びの実現に向けたマネジメントの在り方を追求。現場の最前線と行政の視点の双方から，次代を担う教員の資質・能力向上を目指している。



桑嶋 晋平　准教授

専門は，教育哲学・教育思想史。教師・学習者にとって「誠実」とはなにか，「誠実」概念が近現代日本の教育にいかなる影響をおよぼしてきたのかについて研究を進めている。



日上 奈央子　助教

専門は理科教育・国際教育学・比較教育学。小学校理科教育で育む問題解決の能力に着目し，途上国の教科書，教材，授業等を対象に日本との比較研究を進めている。



清水 睦美　教授

在日外国人の子どもたちと日本の学校・教師・社会との関係，親や母国との関係などについてフィールドワークの手法を用いて検討している。



髙橋 亜希子　教授

現在，探究学習の導入が進み，探究を中心にしたカリキュラムや授業も生み出されている。その可能性と課題を研究している。高校での自主活動，参加型の学習にも関心を持っている。



藤田 武志　教授

学力格差や不登校などのさまざまな教育問題について，アンケートやインタビューといった調査を通して社会学的に探究している。



山下 絢　教授

教育政策実施のプロセスにおける決定メカニズムの解明と，教育政策がどのような効果をもたらしているのかという教育政策の評価を専門とする。



土上 智子　特任教授

専門は，国語科，書写・書道教育。文字を書くことはすべての学習の基礎。「主体的・対話的で深い学び」の実践から，国語力，書写力の向上をめざし，研究を進めている。



荻野 亮吾　准教授

地域づくりに関わる学びの構造や，地域の社会関係が築かれる過程を研究。地域の学びや実践を支える仕組みや組織に関心を持つ。



井口 武俊　助教

教育心理学・体育科教育を基盤に，子どもの学習意欲や自己効力感，学級での人間関係、過剰適応の課題に注目し，ICT を活用した協働的な学びの支援を研究している。

教員インタビュー

ひとびとは教育についてどのように かんがえてきたのだろう？

教育哲学・教育思想史　桑嶋 晋平　准教授



Q　先生の専門分野について教えてください。

A　わたしは，教育哲学，教育思想史を専門としています。教育ってなんだろう，よい教育ってどういう教育なんだろう，あるいは，教育に関連してつかわれるいろいろな概念やことばがどんなふうにできて，どんなふうにつかわれているのか，といった問いを哲学の方法を用いてかんがえたり，ひとびと――わたしの場合，主に近現代日本の思想家ですが――がそうした問いをどんなふうにかんがえ，こたえようとしてきたのか，といったことを明らかにする，そんな研究分野です。

Q　先生はどんなことを研究しているんですか？

A　最近は，近現代日本の教育，とくに教師たちにとって「誠実さ」とはなんだったのか，ということを研究しています。伝統的に，日本の教師は，たんに知識や技能を教えるだけでなく，子どもの背景にあるもの，たとえばどんな生活を送っているか，家庭はどんな状況なのか，そうしたことに目配りしながら，誠実に・献身的に子どもにかかわってきたように思います。それは教師のやりがいにもつながっていますが，他方で，近年とりあげられている教師の多忙化のひとつの要因でもあるように思います。働く環境をよくしていくために，たとえば教師の数を増やして学級規模を小さくしたり，授業時数を減らすなどももちろん必要ですが，同時に，教師の文化や心性として根付いている誠実さとか献身さがどんなもので，どういうふうにつくられてきたのかをかんがえないといけないな，とも思っています。誠実さや献身さが大事だ，というのは，よくよくみてみると，さまざまな思想家や教育学者，教師といったひとびとが語っています。どんな理屈で，どんな風にそれを語っていたのかを，文献や史料をたどりながら明らかにしていく，というのが近年関心をもって研究していることです。

Q　以前授業中に，研究が楽しいということをいってました。どんなところに楽しさを感じていますか？

A　わたしは文献や史料を読み込んで論文を書いていく古風な研究者なのですが，ひとつは，点と点が線でつながっていくことの楽しさ，というのがあります。「なんだかよくわからないことをいっているなあ」と思っていたことが，文献や史料を読み込んでいくと，「そうか，こういう背景があってこんなこといっているんだ」とつながっていくのが楽しいなあ，と思っています。それから，文献や史料を読むというのは，もちろん書いてある内容をきちんと理解しようということなのですが，同時に，中身がわかってくることで自分自身の考えが深まっていく，というのもあるのですね。人間がひとりで考えられることはそう多くありませんし，ひとりで考えていて悶々としてしまうこともすくなくありませんが，文献や史料には伴走者のような一面もあって，自分とは異なる考えをもたらしてくれるとともに，一緒にかんがえてくれる。そうして自分自身の考えが深まったり，世界が広がったりしていくのは，とても楽しいことだなあ，と思っています。

Q　先生のゼミでは、どんなことをどんな風に学んでいますか？

A　教育哲学・教育思想史のゼミなので，文献や歴史史料を正確に読んで，わかったことをまとめていくのが基本ですが，それ以上に，「わからない」とか，「ここに書かれているのはこういうことな気がする」といった問いをみんなで話して考えることを大事にしています。最初はわけがわからないものが，みんなで議論していると，徐々に輪郭を描いていって，点と点が線でつながっていく。この経験や，そこで学んだ方法は，研究だけじゃなくて，教育現場やさまざまな場所で役立つと思っています。また，芸術と教育をテーマにしたときには，東京都現代美術館に行って作品を鑑賞したり，生徒間関係に関連する文献を読んでいたときには，スクールカーストが描かれた映画を観たり，文献に書いてあることと具体的な経験や物事をつなぐことも意識的におこなっています。ゼミ合宿もおこなっていて，普段とは違う環境で，いろいろなものを見ながら学ぶ，ということもしています。



Q　受験生や学生にむけてなにか一言いただければ。

A　なにかとわかりやすさが大事だといわれる世の中ですが，他方で，「よくわからないけれどなにか気になる」みたいなものって大事だと思っています。「これはなんだろう」「よくわからないけど気になる」という不思議さや驚きを大事にしていってもらえたらよいなと思いますし，それがあれば，学びってとても楽しいものになるんじゃないかな，と思います。

Q ゼミってなんですか？

教育学演習（ゼミ）

卒業論文の執筆に向け，担当の先生のもとで，３年生から２年間かけて少人数のグループで専門的に学びます。ゼミ合宿などの楽しい行事を行うこともあります。





教育学を学ぶ――研究と大学院での学び

教育学科では，様々な分野の先生のもとで教育学を学び，教育に関する専門的な知識や技能を身に付けることができます。1 年次，2 年次には教育学の研究法を学び，3 年次からはゼミに所属し演習を通して学びを深めます。そして 4 年次には自分自身で課題を設定して研究を行い，卒業論文を執筆します。
また，大学院では，より高度で専門的な知識を得たり，自分自身の関心を深めたりすることができます。











卒業論文（抜粋）

- 小学校における地域愛着を育むための授業の検討 ー横浜市旭区を題材としてー
- 非正規雇用女性のキャリア形成におけるリスキリングの可能性
  ー中年世代の学びの主体性に着目してー
- ランドセル選択をめぐる意思決定ー子どもの主体性と親の価値観の交錯ー
- 小学校への教科担任制導入時の課題を探る
  ー小学３・４年生の発達段階に着目してー
- 学習動機づけと学習不安の関連ー高校時代の学習経験を回想してー
- 小学校プログラミング教育の推進課題に関する教員の意識調査
- ひとり親家庭の子どもが大学進学に至るまで
  ―人間関係・会話・経験に着目して―
- 美的経験によって内的世界はどのように変容するのか
  ークリストフ・ヴルフのミメーシス論を手がかりとしてー
- セクシュアルマイノリティの存在に対する抵抗感の研究
  ー流動的セクシュアリティの言説から読み解くー

修士論文（抜粋）

- 夫の家事・育児遂行と妻の満足度の関連
- 今後の教職課程に求められる姿の一提案―教師を志す学生の語り―
- 中国人留学生は留学経験をどのように活かしてキャリアを選択するのか
- 主体としての子どもがあらわれる時
  ―佐々木昂の生活綴方論と三木清哲学との思想的つながりから―
- 近代家族の母娘関係に関する一考察―母はなぜ「娘」を手放せないのか―
- 移民第二世代女性の進路決定をめぐるダイナミズム
  ―移民家族とホスト国の結節点で働く社会的作用に注目して―
- 自己調整学習において学習者が用いる自己モニタリング情報と理解度評価の正確さの関連―英文法学習場面での検討―
- ペルー日本人移民の生活史とアイデンティティに関する一考察
  ー排日運動による山岳地への移動を経験した大河家の軌跡を手がかりにー
- 青年期の自己受容の様相と規定要因の検討
  ー中学生・高校生対象の質的・量的調査による分析からー

2025 年度 JS「住まい・団地・まちづくり」論文・制作賞　奨励賞受賞



早川 媛花　2025 年度卒業

私は，住民自らが主体的にまちづくりに関わるための支援の工夫を研究するために，「良いまちづくりワークショップのつくり方」というテーマで卒業論文を執筆しました。

指導教員からの誘いをきっかけに，大学３年生の冬から，近江八幡市で行われているまちづくりワークショップに参加してきました。そこでは，多様な世代や職業の住民が集い，話し合いが行われていました。話し合いの調整役であるファシリテーターを務めてみるも，なかなか思うような進行ができず，悩むこともありました。そこで，実際にワークショップに関わっているファシリテーターたちにインタビュー調査を行い，まちづくりワークショップで話し合いを円滑に進めていくためのポイントを見つけていきました。

大学生だからこそ，実際のまちづくりに関わる機会をもつことができ，その貴重な経験をもとに，良い研究ができたと感じています。初めての論文執筆で不安もありましたが，指導教員の先生から丁寧なアドバイスをいただき，ゼミの友人と励まし合いながら，卒業論文を楽しく書き上げました。

現在は，小学校教員として勤務しています。学校現場でも，自らの手で生活する環境を良くしていくというまちづくりの考え方や，より良い話し合いをつくっていくための働きかけを活かせる部分が少なくないと感じています。大学生活での学びを，これからの自分自身の成長に繋げていきたいです。



学部，大学院での学びと研究

人間社会研究科　教育学専攻
博士課程後期　内橋 舞子

高校生の時に，学校における教育の諸問題を広く学びたいと思い日本女子大学の教育学科に進学しました。研究テーマは，「理解に対する考え方の個人差が学習行動に与える影響」です。きっかけは，アルバイトをしている学習塾で，生徒の「わかった」という言葉に疑問を持ったことです。生徒と話したり観察したりしてみると，ある生徒は習ったことを自分の言葉で説明できることを理解と捉えている一方で，穴埋めの問題が解ければ理解したと考える生徒がいることに気づきました。また，前者の生徒の方が，自分の理解状態を正確に把握し，それを活かして学習を行なっているのではないかと考えました。

この理解に対する考え方の個人差を実証的に調べてみたいと思い，卒業論文では中学生 700 人にアンケート調査を行いました。分析を行なったところ，想定通り，自分の言葉で説明したり「なぜ？」といった意味理解ができれば理解したと考える「深い理解観」と，勉強の量をこなしたり問題が解けたりすることができれば理解したと考える「浅い理解観」の 2 つにまとまりました。また，「深い理解観」を重視している生徒は，自分の理解状態を正確に評価していることがわかりました。その後，博士課程前期，そして博士課程後期へと進学し，研究を続けています。

研究を形にしていくときには困難に直面することもありますが，自らの経験に基づき立てた問いをデータで明らかにすること，その過程で様々なバックグラウンドを持った人と関われることに楽しさややりがいを感じています。



教師になる——教職課程の学び

教育学科では，1年次からはじまる学校インターンシップや，各授業での授業づくりや模擬授業，そして3年次，4年次での教育実習と，教師としての専門性を高め，教職に就くための豊富なカリキュラムを用意しています。

取得可能な教員免許状

教育学科では，以下のいずれかのパターンで教員免許状を取得できます。

小学校教諭
小学校教諭と中学校教諭（社会）
中学校教諭（社会）と高等学校教諭（公民）



教職課程の4年間（小学校の場合）

1年次 教職の基礎を学ぶ・学校インターンシップで学校現場を体験する

教職基礎論や教育心理学などの科目で教職の基礎を学ぶとともに，学校インターンシップで学校現場に赴き，学校でのしごとや子どもの理解，支援について実践的に学びます。



2年次 指導法の授業での授業づくりや模擬授業・学校インターンシップで学校現場を体験する

教科教育法の授業で，授業づくりや学校での指導のしかたについて学んだり，模擬授業を通して実践的な力を培ったりします。2年次も，引き続き学校インターンシップで学校現場での実践的な学びを行います。



3年次 教育実習で実践的な力を身につける

3年次は，3週間の教育実習を通して，教師としての実践的な力を身につけます。教育実習に向けた事前指導では，実習で必要になることがらを学び，よりよい経験となるように準備を行います。



4年次 教育実習で実践的な力を身につける・4年間の学びをふりかえる

4年次は，2週間の教育実習を通して，教師としての専門性を高め，実践的な力を身につけます。また，教職実践演習では，4年間の教職課程での学びをふりかえります。

教師になるための学び



合唱やピアノを学ぶ



教材を研究して授業の計画を立てる



模擬授業を実践する



実習を振り返る

――教職課程での学び

教育学科４年　若林 実珠々

教育学科の魅力は，教員養成のための実践的な学びだけでなく，人間や社会について深く理解し，生涯にわたる人間の成長・発達形成の仕組みを学べることです。

1 年生から学校インターンシップに参加できるのは，本当に貴重な経験でした。教員という仕事を現場で早くから体感することで，大学での学びがより具体的になり，自分が本当に子どもが好きで子供と関わる仕事をしたいということも再確認できました。このように早い段階から教育現場に触れることで，実習までに十分な経験を積み，自分の適性や興味を確かめられるのは，他にはない強みだと感じています。

授業は少人数制で行われ，グループワークも多いため，自然と仲間との絆も深まり多様な価値観に触れることで自分の視野も広がりました。特に模擬授業では，クラスメイトからの的確なフィードバックが得られ，授業づくりの力が確実に向上していきます。

教育実習が 2 回あることも大きな特徴です。1 回目の実習での反省や学びを 2 回目に活かせるため，段階的に実践力を高められます。私自身，2 回目の実習では 1 回目よりも余裕を持って子どもたちと向き合うことができ，成長を実感しました。

また，3 年生からは専門性を深めるゼミに所属します。様々な専門分野の先生方がいるので，自分の興味に合った研究ができます。時には大変なこともありますが，ゼミ合宿などの行事はかけがえのない思い出となっています。

教員としての道だけでなく，人間理解を基盤としたどんな進路にも活かせる貴重な財産となりました。教育という視点から人間の成長と社会を学ぶことで，どんな道に進むにしても大切な，一生の財産となる知識と感性を身につけることができたと実感しています。



教員採用試験合格率

2025 年度（2026 年度採用）の公立小学校教員採用試験合格率は **90.9%** です。

（参考：2024 年度（2025 年度採用）公立小学校教員採用試験全国合格率 46.9%）

	東京都	埼玉県	さいたま市	千葉県・千葉市	神奈川県	横浜市	川崎市	茨城県	新潟県	富山県	福島県	合計
受験数	10	2	2	7	2	2	3	1	1	2	1	**33**
1次試験合格数	10	2	2	7	2	2	3	1	1	2	1	**33**
2次試験合格数	10	2	1	6	2	2	3	1	1	1	1	**30**

教員採用試験への支援

教育学科では，経験豊富な先生たちが教員採用試験の支援（面接練習や面談など）をおこなっています。また，日本女子大学教職総合センターでは，教育現場経験者による相談や，教員採用試験の対策講座，教員として活躍する卒業生との交流会を実施し，教員採用試験への、そして教師になることへのサポートをおこなっています。



教育現場経験のある教員による支援



面接の練習



対策講座で採用試験の傾向を学ぶ



教員として活躍する卒業生との交流会

教師として活躍する卒業生



山野邊 舞鈴　2024 年度卒業
千葉県公立小学校

私は現在，千葉県の公立小学校に勤務しています。あらためて振り返ってみると、教育学科の魅力は，次の 3 つだと感じています。

1 つ目は，学校教育にとらわれない幅広い授業をうけることができる点です。一般教養科目では，教育だけでない自分の興味関心を追及することができ，また，学科の専門科目でも，学校にとどまらない，さまざまな教育や人が育つことに関わる授業をうけることが出来ます。こうした幅広い授業をうけることで，さまざまな知見を広げることができました。

2 つ目は，少人数制のゼミです。教育学科では，1，2 年生でさまざまな授業を受けることで自分の興味分野を固め，3 年生からゼミに所属します。少人数制のゼミでは，一つのテーマについて深く考え，主体的に学ぶ経験を積むことができました。少人数制だからこそ，教員との距離が近く，疑問に思ったことをすぐに相談できる環境が整っていました。学生同士でも積極的に意見交換を行い，多様な考えに触れることで，自分自身の視野を広げることができたと感じています。

3 つ目は，同じ志を持つ友人に出会えるということです。教員を目指す友人たちと共に学ぶ中で，模擬授業の練習や教育実習の悩みを共有し，互いに励ましながら成長することができました。授業後に集まって教材研究をしたり，同じ目標に向かって努力する存在があったからこそ，困難な場面でも前向きに取り組むことができたと思います。

教員として働く現在でも，教育学科ですごした 4 年間で学んだことは，大きな財産になっています。教育学科で楽しく充実した 4 年間を送ってください！



早稲田 佳穂　2025 年度卒業
千葉日本大学第一小学校

私は現在，小学校 4 年生の担任として，子どもたちと学校生活を送っています。想像していた以上に行うべきことが多く，大変だと感じる場面もあります。しかし，子どもたちができなかったことをできるようになった瞬間や，自信をもって挑戦する姿を間近で見るたびに，大きな喜びややりがいを感じています。日々の関わりの中で，一人ひとりの成長を支える責任の重さと同時に，教師という仕事の魅力を実感しています。

現在，このように子どもたちと関わることができているのは，大学での学びや経験があったからだと感じています。特に大学 1 年生の頃から参加したインターンシップでは，子どもとの関わり方，学級経営の工夫などを知り，大学で学ぶ教育理論を具体的な学校現場と結び付けながら理解できるようになりました。その経験は，教育実習に向けた心構えや準備にもつながり，実践的な視点を持ちながら学習を進める大きな支えとなりました。

また，教育学科は，教員と学生の距離が近く，とても温かくアットホームな雰囲気がありました。進路相談や教員採用試験に向けたサポートも充実しており，教員を目指す中で不安を感じた際には，親身になって相談に乗っていただきました。模擬授業についても一対一で指導していただき，自分では気づけなかった課題や改善点を知ることができました。その積み重ねによって，人前で授業を行う力や，自分の考えを相手に伝える力を身につけることができたと感じています。

大学で得た知識や経験は，単なる学びとして終わっているのではなく，現在の教育実践の基盤となっています。これからも大学で培った学びを生かしながら，一人ひとりの子どもに寄り添える教師として成長していきたいです。



資格を取る

教育学科では，さまざまな資格を取ることができます。教員免許状と合わせて資格を取得する学生や，取得した資格を活かして社会で活躍する卒業生も数多くいます。

教育学科で取得可能な資格

小学校教諭一種免許状／中学校教諭一種免許状（社会）／高等学校教諭一種免許状（公民）／学校図書館司書教諭／社会教育主事（社会教育士）／司書／博物館学芸員／児童指導員／児童福祉司／日本語教員養成講座／社会調査士／社会福祉主事



社会教育主事（社会教育士）

社会教育主事は，都道府県や市町村の教育委員会に置かれる社会教育の活動を支援する専門職員です。公民館・図書館等の施設や，子ども会・PTA・老人クラブ等の団体，NPO・まちづくりの活動に関わり，生涯にわたる学びを支えます。社会教育主事とあわせて社会教育士の称号も取得でき，学校や企業等，さまざまな現場で学びの成果を活かすことができます。



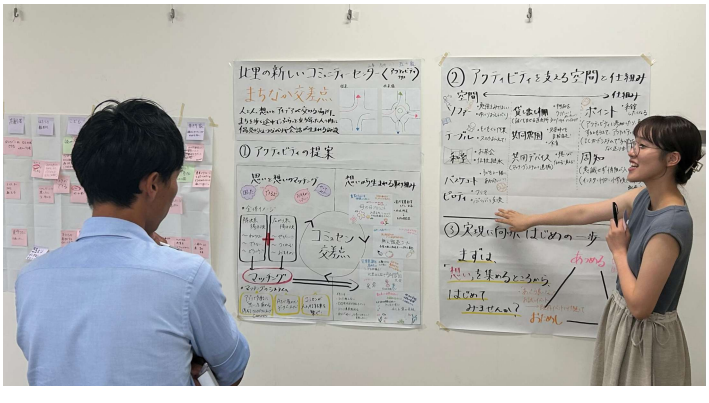
地域でのまちづくりの話し合いに学生が参加する様子



NPO の研究集会で実習生が発表をする様子



公民館のイベントで実習生が子どもたちと交流する様子



地域で学生が企画を発表する様子

教育学科から

世界とつながる

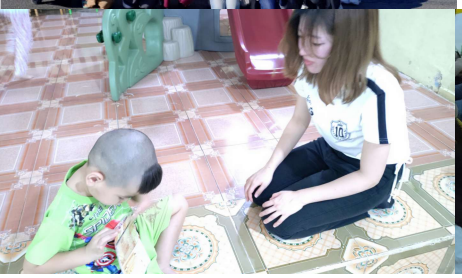




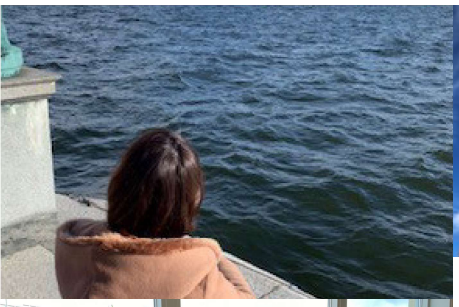

異文化相互理解実地研究

6泊 8 日でフエ・ホイアン・ホーチミンを訪問します。フエ・ホイアンでは，フエ大学で日本語を学んでいる学生さんとの交流に加え，小中学校を訪問して子どもたちとの交流を行います。ホーチミンでは，孤児院や障がい者施設での交流を通して貧困や格差について考えたり，ベトナム戦争に関わる施設を訪問し紛争や平和について考えたりする機会ももちます。









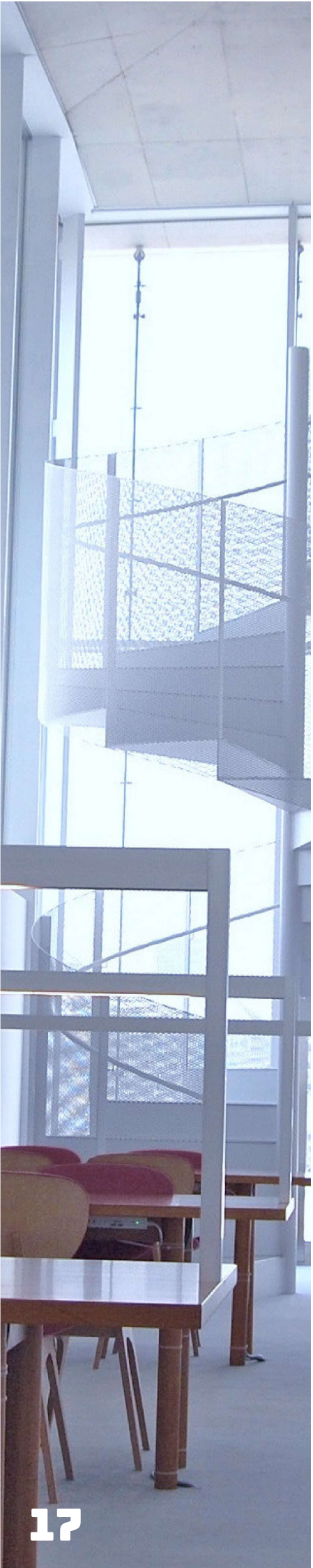

スウェーデン海外短期研修

教育，保育，環境の先進国である，北欧スウェーデンを訪ねます。北欧最古の大学であり，本学の協定大学でもあるウプサラ大学では，最先端の研究や設備に触れ，現地学生との交流を行います。保育園（就学前学校），小学校・中学校（基礎学校）では，一人一人の学びを大切にする教育を視察します。市役所では，環境に配慮した施策についての話を伺います。



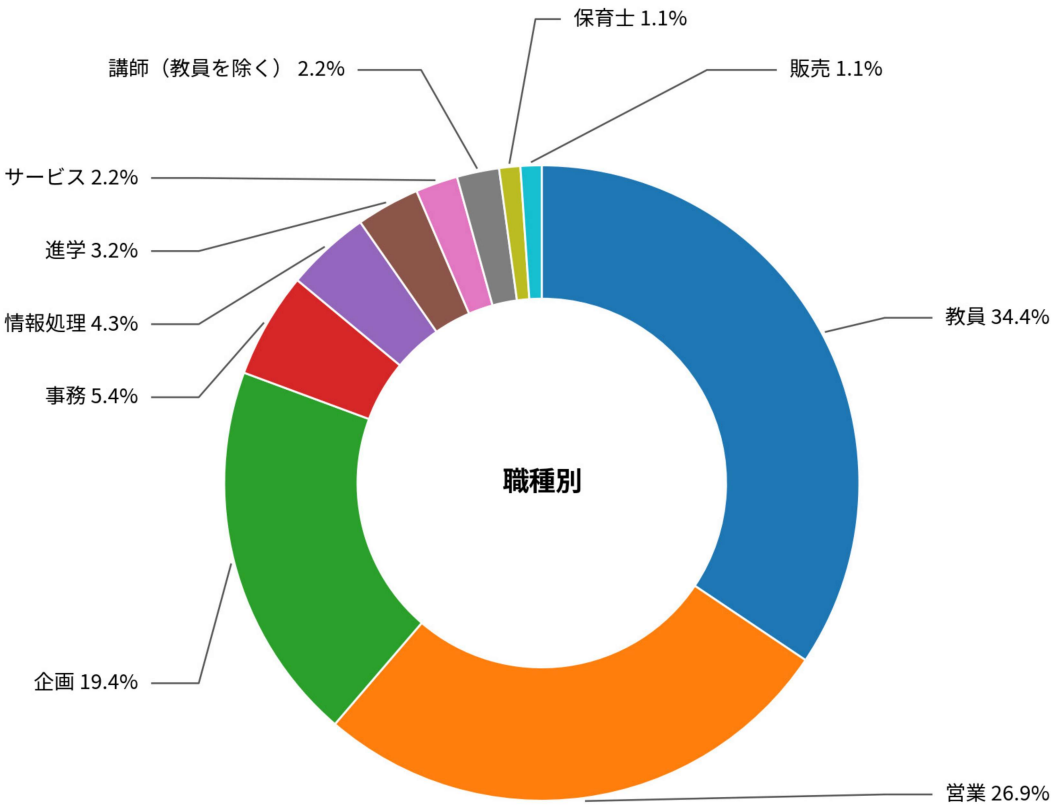






卒業後の進路

2026 年 3 月卒業（93 名）



主な就職・進学先一覧（2026 年 3 月卒業）

教員 東京都公立小学校／東京都公立特別支援学校／神奈川県公立小学校／横浜市公立小学校／川崎市公立小学校／埼玉県公立小学校／さいたま市公立小学校／千葉県公立小学校／福島県公立小学校／新潟県公立小学校／千葉日本大学第一小学校／川村小学校

営業 キリンホールディングス／明治安田生命保険／テレビ北海道／ジェーシービー／東日本旅客鉄道株式会社／光村図書出版／三井住友銀行／ NTT ドコモ／ TOPPAN

企画 あいおい損害保険／清水建設／神奈川信用金庫／ＪＦＥスチール／住友倉庫／三菱ＨＣキャピタル

事務 東京・特別区／柏市／可児市役所

情報処理 みずほリサーチ＆テクノロジーズ／ＳＣＳＫ

進学 日本女子大学大学院

さまざまな分野で活躍する卒業生

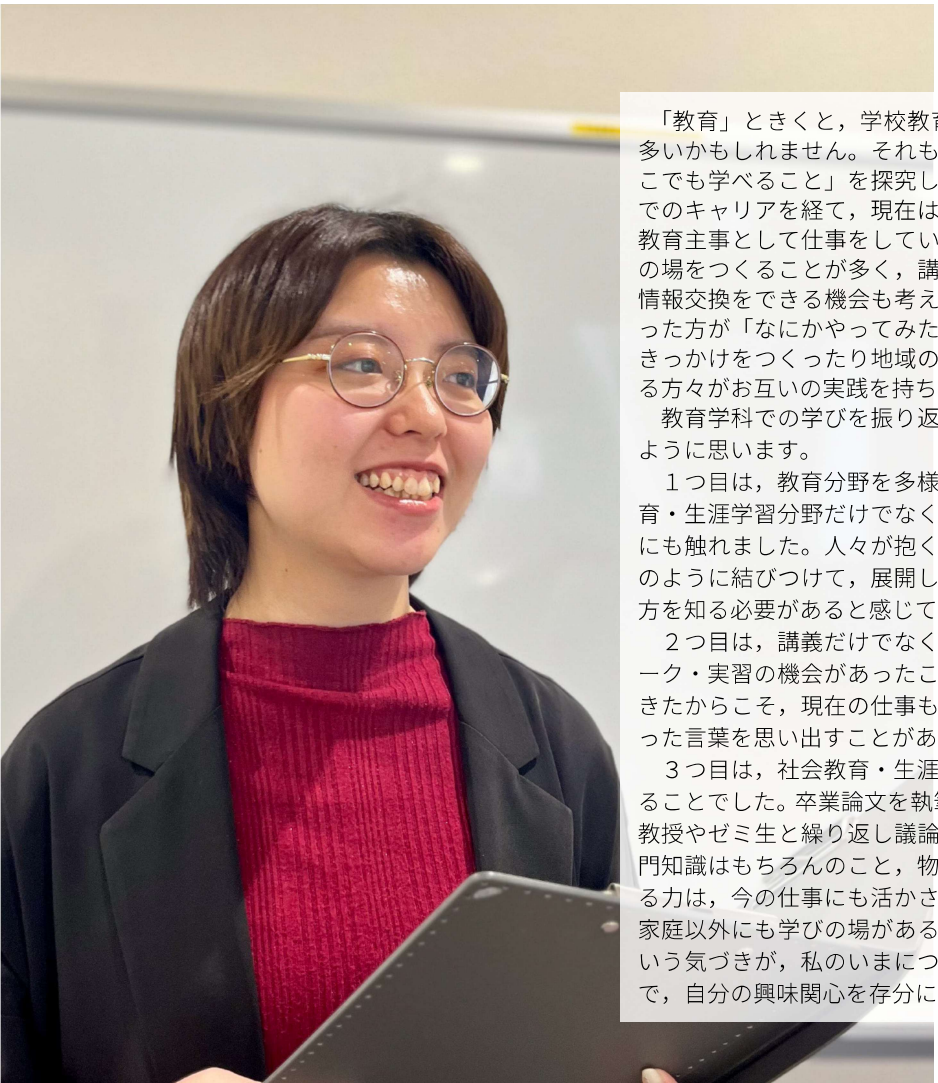


塩谷 奏実　2023 年度卒業
日清製粉ウェルナ

本学科の 1 番の魅力は，少人数制なところです。大学 1，2 年では好きな授業を履修し，自分の興味のある分野を模索した後，3，4 年ではゼミに所属します。少人数のゼミで，教授との距離が近かったため，私は勉強や就職の悩みについてよく相談に乗っていただいていました。

現在私は日清製粉ウェルナのロジスティクス部に所属し，製品の需給を管理しています。毎日変化する販売状況や製品在庫を踏まえ，製品の製造数量を調整し，工場へ依頼する部署です。大学では苦手な分野をあえて履修したことで，自分の逃げ癖を克服し，当時は嫌いだった数字と向き合う仕事をしています。

私は一般就職する道を選びましたが，当初は教員になるつもりで入学しました。教育学科だからと教員になる道だけに縛られることなく，興味のある授業を履修する中で「将来何をしたいのか」考えながら，自分の道を決められたので，教育学科で学べてとても良かったなと感じています。皆さんも，親身に寄り添ってくれる教授たちがいる教育学科で，ぜひ実りのある 4 年間を過ごしていただきたいです。



榊 佑奈　2018 年度卒業
杉並区立社会教育センター

「教育」ときくと，学校教育や子どもたちの学びをイメージする方が，もしかしたら多いかもしれません。それももちろんですが，私は教育学科で「いつでも・誰でも・どこでも学べること」を探究し，その魅力を知ることができました。私は卒業後，公民館でのキャリアを経て，現在は社会教育センターという施設に勤務し，専門職である社会教育主事として仕事をしています。子どもが対象となる事業もありますが，大人の学びの場をつくることが多く，講座の企画・運営や，地域で活動している人・団体が交流や情報交換をできる機会も考えています。具体的には，これまで地域とのかかわりがなかった方が「なにかやってみたい！」と思ったときに，はじめの一歩を踏み出せるようなきっかけをつくったり地域の魅力や特徴を知ったりできる講座，地域での活動をしている方々がお互いの実践を持ち寄って聴き合うワークショップなどをおこなっています。

教育学科での学びを振り返ると，大きく３つのことが現在の仕事にもつながっているように思います。

１つ目は，教育分野を多様な視点から学んだことです。もともと興味があった社会教育・生涯学習分野だけでなく，学校教育について，また社会学や多文化共生などの分野にも触れました。人々が抱く想いや地域がもつ課題は多様です。それらを引き出し，どのように結びつけて，展開していくかを考えるためには，あらゆる立場の考え方や在り方を知る必要があると感じています。

２つ目は，講義だけでなく，さまざまなグループワークや，施設等へのフィールドワーク・実習の機会があったことです。座学で得た知識がリアルなものとしてイメージできたからこそ，現在の仕事もより魅力的に見えましたし，今でも実習先の方々から教わった言葉を思い出すことがあります。

３つ目は，社会教育・生涯学習分野の学びを深めたゼミでの研究は，とても意味のあることでした。卒業論文を執筆するにあたり自分の決めたテーマを深く掘り下げるため，教授やゼミ生と繰り返し議論をしたり，インタビュー調査をおこなったりしました。専門知識はもちろんのこと，物事を多面的に捉える力や他者から聞き取ったことを分析する力は，今の仕事にも活かされています。多様な知識や価値観に触れたことで，学校や家庭以外にも学びの場があること，自分がこれまでに経験したことは社会教育だったという気づきが，私のいまにつながっています。ぜひみなさんも日本女子大学の教育学科で，自分の興味関心を存分に探究してみてください。



日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY